

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：22026

実 態	「学ぶ力」	
	成 果	課 題
	◇子どもたちにとって分かりやすく見通しのもちやすい単元構成で「やってみよう」を引き出すこと。 ◇導入の工夫や教材、教具の工夫することで、子どもたちが同じ土台で授業に参加できたこと。	◇子どもたちが「話したい」、「聞きたい」と感じられるような、目的意識や必要感のある交流場面を設定すること。 ◇多様な考えが出された際に、考えを深めたりまとめたりしていくこと。 ◇整数の四則計算に関する理解の定着と、基礎的な計算処理能力の向上。
	「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	◇札幌市の共通指標の「人の役に立ててうれしいと感じることがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」等の相互承認に関連する項目において、全校の約90%の児童が肯定的な回答をしている。ただし他の項目に比べると、「自分が必要とされていると感じる」割合は低い傾向にあり、他者からの承認を素直に受け止める心を醸成していく必要がある。 ◇異学年交流や運動会、学習発表会等の行事、日々の授業での相互評価の場を定期的に設定していることが、自己肯定感の高まりに関係していくと考えられる。引き続き、自分に自信をもつことができるような場の設定や価値付けをしていくことが重要である。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

伝え合いながら学びを深める力

取 組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	(1)教職員が互いの授業を参観し、授業について討議する機会を設定するなどして、学びの土台となる基礎学力の定着を図る。 (2)子どもが見通しをもって学び続けることができる単元構成を考える。 (3)子どもが「話したい」、「聞きたい」と思うようなや教材化の工夫や手だてを考え、実践する。	◇ <u>児童会活動の推進</u> 書記局代表が中心となって学校テーマを作成し、各委員会がその実現に向けた活動を設定・実践することで、子どもたちが主体的に話し合い、よりよい学校づくりに参画する活動を推進する。
	「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
	◇ <u>各教科での活用</u> 調べ学習やプレゼンテーションづくりなど、一人一台端末を効果的に活用できる学習活動を設定するとともに、情報モラル教育の充実を図り、適切に情報を活用する力を育成する。 ◇ <u>パートナー校との連携</u> オンラインミーティングを通して、各学校の活動を共有したり授業について意見交換をしたりすることで、互いの実践を学び合う機会を充実させる。	

<本プログラムの実行に向けて>

